

天正	二八	一五九〇		会津洪水、田付川氾濫。	
文録	元	一五九二		会津大洪水。太郎水と呼ぶ。	
	三	一五九四	六、一八	大雨洪水、柳津虚空藏舞台及び大石流る。	
	四	一五九五	六、一五 六、一八	六月十五日より十七、八日大水増、大石七つまで押流す。 両むかいの家皆流れる。	塔寺長帳
慶長	一六	一六一一	八、二一	会津大地震、日橋川、山崎の山崩れ人家倒潰多し。山崎新潮を生ず。 死者三、七〇〇名。	新編会津風土記 その他
寛永	七	一六三〇	九、一六	只見川大洪水、柳津鐘樓流れる。	
	八	一六三一	六、一九	九月十六日より連日大雨、会津大洪水、次郎水と呼ぶ。山崎再びふさがる。白鬚の水より水位三尺二寸高く、各地被害多し。柳津虚空藏の鐘樓流れる。	
	一〇	一六三三		会津大洪水、三郎水と呼ぶ。幕ノ内村水のため天文中移り、再び今の地に移る。	
	一一	一六三五		大川川除普請のこと、佐野川を佐野の下より、まあたの方まではかりて八月より三カ月普請。	塔寺長帳
	一三	一六三六		洪水の為如来堂村大川西より東に移る。	
正保	三	一六四六	六、一三	大川洪水、二、三、〇〇〇石の田畑損亡、郡奉行二十四日被害調査、秋の検見の節年貢より差引く。	これより約百年間 家世実紀による
慶安	元	一六四八	七、一三	洪水、猪苗代・姥堂など押流され七、八、〇〇〇石水損。	
	二	一六四九		大洪水	
	三	一六五〇	七、四	川々洪水、堤防破損一、〇〇〇間余、一、〇〇〇石水損。	
明暦	元	一六五五	八、一一	大洪水	
万治	二	一六五九	七、二	大雨、洪水。	